第７回循環制御研究会開催のご挨拶

会長　山本道雄

第７回循環制御研究会を昭和61年４月９日国立京都国際会館で行うことになりました．このような立派な会場を使用できるのは第33回日本麻酔学会会長宮崎正夫教授のご尽力に依るものであります．ここに感謝の意を表します．

さて今回は長期連用薬剤の問題点と Noninvasive cardiovascular monitoring を主題に選んでみました．ともに常に進歩をつづけている，我々にとって身近で興味ある問題と思います．演者にお願いした先生方も内科，外科，精神科，麻酔科と広い分野の権威者で，ご自分の学会と期日が重複しておられる方もありましたが，快く引受けて頂きました．

今回は一般公募に先立ちパネル，シンポジウムの題名とそれぞれの司会者や演者を決めましたが関連した演題はポスターによる発表及び時間が許す限り発言をおねがいして充分討論して頂きたいと考えています．

他の一般演題は通常の発表形式をおこなう予定です．

昭和35年頃と言っても我々の年代にはそう遠い昔ではありません．

当時は心拍出量を測定するのは一日がかりの仕事でした．動脈針で１～２秒おきに数十本のキュベットに採血し分離血清の色素濃度を測定してセミログ・ペイパーにプロットして計算すると１回の測定に４～５時間を要しました．これを３回もくりかえせば徹夜の仕事となりました．

キュベット・オキシメータの開発，スワンーガンツ・カテーテルの発明で測定の所要時間が分，更に秒単位の仕事になり今回話題になった Noninvasive な方法の開発まで心拍出量測定だけについてもその進歩はいちじるしく，特に最近の進歩の速さは目をみはるほどであります．

つねに，新しい知識を基に患者管理を行う義務のある我々の仕事に今回の企画が活かされると信じます．

Presented by Medical*Online